

# 加地市長 ▶ 2期目スタート

# もっと つながろう 小郡



5月17日、加地市長2期目の就任式を行いました



か じ りょう こう  
**加地 良光**

昭和39年11月13日生まれ

昭和63年	3月	埼玉大学経済学部 卒業
昭和63年	4月	株式会社NBC長崎放送 入社
平成10年	9月	株式会社NBC長崎放送 退社
平成10年	10月	株式会社TVQ九州放送 入社
平成28年	12月	株式会社TVQ九州放送 退社
平成29年	5月	小郡市長 1期目 就任
令和3年	5月	小郡市長 2期目 就任



## 就任のごあいさつ

市民の皆さんから信任をいただき、2期目の市政運営、まちの未来を託されました。その重責を全身に受け止め、身が引き締まる思いです。これからの4年間は、市政の大きな変革期であったと、後世振り返ることになるのではないかと思います。人口減少・少子高齢化、社会の担い手不足が心配される、いわゆる2040年問題に、コロナ禍により一足早く、現実的な対応を迫られています。民間では市場規模の縮小に直面し、事業再編、業態転換を求められ、感染防止のための出勤制限は、働き手不足の状況を先取りする形となり、非接触社会の広がり、離れて仕事をするリモートや現金

を使わないキャッシュレス決済を標準化させています。

自治体においてもデジタル庁設置で新たな転換点を迎えています。

新しい技術を活用しながら、新しい生活・働き方の仕様が加速しています。

そのような中で、超高齢社会の地域運営では、担い手不足が心配され、公共と、多様な民間の経験や仕組みをうまく組み合わせた連携と共働の関係をどう構築するかが急がれます。



1期目の4年間、私は、市民との「対話」を進めてきました。「対話」から、多くの課題や問題点に気づき、共感し、

互いの役割を確認する、「対話」が、市政運営での大事な過程であると考えてきました。

これからも市民との「対話」を継続しながら、来年の市制施行50周年という節目に、「市民が育て、創るまち」を市民憲章として打ち出し、多様な市民・民間団体が主体的に参画するまちづくり条例の制定を図ります。

いことは、それ自体が大きなリスクと強く認識しなければなりません。

政策形成では、前例踏襲を超え、先進事例参照だけでなく、創造的な戦略的思考と柔軟な実行力が求められ、勇気を持った朝令暮改さえも必要だと思います。

小郡市役所は、新型コロナウイルス対策・災害対策といった目の前の課題にしっかり取り組み、さらに将来を見据えて新たなまちの可能性に果敢にチャレンジします！

そのために、市民の皆さんと、もつとつながっていきまします。コロナ禍を乗り越え、この変革期を一緒にチャンスに変えていきましょう！

変化が早く複雑な時代は、誰も答えがわからない状況でさまざまな判断をしなければなりません。中長期的な構造変化をしているとき、行政はあやまちを犯さないという前提は、現状維持にしがみつくことになりがちで、変わらない